

しみんけんきゅうニュース

発行:(公財)千里リサイクルプラザ 市民研究所 〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3
TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530 <http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

市民研究所 研究実践発表会 開催 2025 12/6

【目次】

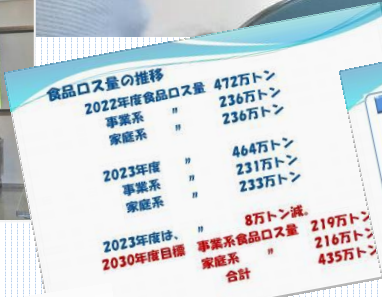
- P2 TOPICS
- P3 各チーム活動報告
- P4-5 特集 身近な環境を調べようPT
- P6 主担研究員コラム
- P7 市民研究所通信
- P8 2・3・4 月行事予定



2025/12/06



最も好評だった
動画による説明



目的:「ごみゼロ」⇒資源化のためには、分別の高度化が基礎。
物質(廃棄物)の循環システム(Re-Cycles)に向けて現状把握と発信。
更に、問題指摘ができれば...

方法: 各自自治体の分別収集および収集後の分別処理・処分
(広報物、アンケート)、文献調査

結果(これまでの途中経過: 調査方法を模る程度の結果)
・収集時の分別は自治体全体で廃棄物処理に必要
・収集後の分別処理・処分は自治体からの依頼が主
・容器包装以外のプラスチックも資源ごみとしての扱いが増
きているが、業者委託のケースが多いので、業者への依頼
・収集後のごみの行方(処理・処分)について広報している

(結果のつづき)
・ごみ有料化の自治体で、拠点へ持込分別収集の場合、無料、ポイント付与
のケースがある。ごみ減量で有料化見合わせの自治体。
・特定校や生ごみを分別して回収しているケースがあった。
・山村移住者が増えて収集システムを変えているケースがあった。
・廃棄物問題には文化的側面から捉える視点も忘れずに。

今後の行動と課題
・自治体関係施設への開陳を続けるが、調査項目の整理(書式化)。
・SDGs12のうち、「つくる責任」製造業による資源化への取組の現状を調べる。
また、「まわす責任」行政が変えるが、開陳に際し、画を得た
・課題というよりは悩み(お悩みのこと)で、開陳に際し、画を得た
担当者との紹介を研究所にお願いしたい。
共同研究者がなく、議論の場もないので、出席を望んでいます。



スクール生も招き
R7年度の発表を
行いました。
本年もよろしく
お願いいたします。



TOPICS

～ もったいないバザール ～

秋晴れの中、10月19日(日曜日)に開催されました。

「ものを大切にする」という「3R」の啓発推進を行うイベントです。

毎年人気の『かえっこバザール』は子どもたちが運営しています。

また、企業・団体のワークショップ“洗濯機の解体ショー” 市民研究員による“体験コーナー” どれも大盛況で、多くの若い家族が訪れていました。

“紙すき体験コーナー” では、子どもたちが多く約80人の参加がありました。

また、先日環境出前授業に行った先の小学生が家族と一緒にハガキ作りに参加され、うれしい再会となりました。

子どもたちから親へ「3R」の環境実践活動がつながり「学び場」となり、少しずつ広がっていくことを願っています。

<市民研究員 渡辺明美>

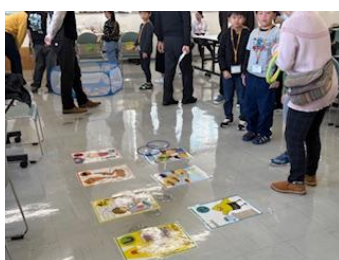


～くるくるキッズ環境スクール～

12月20日(土曜日)に閉校式を行いました。

『プラの気持ち』のゲームに始まり、食品ロスゲーム、端切れを使ったメッセージカード作りなどを体験し盛況でした。

特に『プラの気持ち』ゲームでは、ペットボトルが回収された後、繊維やシャツになる道のりや、資源ゴミとして正しく回収されないとゴミとして処分になる結果が実感できたと思います。課題に対して自分の考えを発言する機会もあり主体的に学べ、また親子参加なのでご家庭でも環境への関心が高まるように感じました。



(市民研究員 関ともえ)

プロジェクトチーム (PT)・アクションチーム (AT) 活動報告

市民とお店をエコでつなぐ PT

来年度の出前講座「ごみの12種分別ゲーム」の内容について検討を始めました。
「紙ごみ」を新たに取り入れ、子ども達が身近にごみの減量や資源の大切さを考えることができるよう作成に取りかかります。 [活動紹介のブログを始めました。](#) →



吹田ごみゼロシステム研究 PT

ブログ「ごみの現状と考察」「日本は4年連続「化石賞」！……韓国は化石燃料をやめていく事を表明！」「データセンターが水を食う 電力を食う」「商品包装、梱包資材削減に向けてできること」「びんビールで乾杯」アサヒビールの120年-その感動を、わかちあう。-をアップしました。ぜひ見てください！なお、ブログをたくさんの方々に見てもらうための手立てを検討中です。
その他、ごみゼロを伝える出前資料作り「資源がまわる 地球をめざして」のパワーポイント作成

身近な環境を調べよう PT

3年間にわたる池の調査も終わり、その成果の動画「吹田市の身近な環境 ため池」をYouTubeにアップしました。また、メンバーが2名増え、活動がさらに活発になりそうです。
[YouTubeの動画はこちら](#) →



SDGs 啓発 PT

メンバーそれぞれがやりたいことやアイデアを持ち寄り、活気ある雰囲気の中で活動しています。意見交換も活発で、少しずつ取り組みの幅が広がってきました。
今年も、新しい発想を大切にしながら、意欲的に活動を続けていきます。

手作りおもちゃと環境 AT

ロハスフェスタで開催したワークショップは大盛況でした！毎年参加できるようにしたいです。
2月17日～3月1日、南千里のラコルタでプラザの紹介にて、手作りおもちゃも展示予定。

紙すき体験と環境 AT

研究実践発表会ではパワーポイントでの分かりやすい活動説明で、皆様からとても良い評価を頂きありがとうございました。頂きましたアドバイスを取り入れて今後一段とパワーアップした紙すき AT チームをみていてください。

マイ食器啓発 AT

プラザのオリジナル容器を持っていると“お得がある”をイベントなどで実施し、マイ食器を持ち運ぶことを啓発していきます。みなさん、私たちと一緒に行動しませんか？

アカミミガメについて

市民研究員 岡本陸奥夫

身近な環境を調べようプロジェクトチームでは、2020 年度から糸田川や蓮間池、春日大池、釈迦ヶ池などのため池の観察をしてきましたが、どこに行っても見られるのがアカミミガメです。

1. アカミミガメとは

「アカミミガメ（赤耳亀）」という和名は、側頭部に赤い斑がみられることに由来しますが、甲羅に黄色や黒のしま模様が入ることも特徴です。



「アカミミガメ防除マニュアル」より

アカミミガメは、アメリカ合衆国から南アメリカ北西部が原産で、アカミミガメには3つの亜種（キバラガメ、ミシシippアカミミガメ、カンバーランドキミミガメ）がありますが、問題化しているのはミシシippアカミミガメです。

昔、お祭りの縁日で、ヒヨコなどとともに、出店で売られていた「ミドリガメ」を見たことがある方もおられると思いますが、この成体がアカミミガメです。

「ミドリガメ」は、1950 年代後半から日本にペットとして輸入され始め、全国の飼育数は、2019 年時点で、約 110 万世帯、約 160 万匹と推定されています。

また、環境省の統計解析によると、野外に生息するアカミミガメは、約 800 万匹（2015 年）と推定されています。

アカミミガメは、外敵が近づくと驚いて水中に滑るように逃げます。

公園の池などで、いつも餌をもらっているカメは近づいてくることがありますが、日光浴などをしているときに近づくとすぐに水に潜るか、警戒している様子をよく見かけます。



2. アカミミガメの問題点

繁殖力が強いアカミミガメは、雑食性で、子魚やイモリ、カエル、水生昆虫、マキガイ、エビ、ミミズなどの他、植物の葉や花、藻などを食べています。

そのため、ニホンイシガメが元々すんでいた川やため池、お堀、公園の池などで繁殖し、ニホンイシガメのすみかやエサを奪ってしまうという問題があり、これらのカメの卵を食べることもあります。

また、アカミミガメは、私たちの身近な水辺環境に生息している一方で、自然環境の豊かな地域まで生育環境を広げています。

さらには、成長に伴い、水草を大量に食べることで、ヒシやハスなどの水生植物を消滅させてしまったという事例も見られます。

3.アカミミガメへの対策

2015 年 3 月に環境省及び農林水産省が作成した「生態系被害防止外来種リスト」において、「緊急対策外来種」に位置づけられました。

また、生態学会により日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されています。

最近では、2022 年の通常国会で成立した「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の一部を改正する法律」により、「条件付特定外来生物」に指定され、2023 年 6 月 1 日から、野外への放出、輸入、販売、購入、頒布等を許可なしに行うことが禁止されました。

また、2012 年の「動物愛護及び管理に関する法律」の改正で、飼い主の責務として、終生飼養（動物がその命を終えるまで適切に飼うこと）が定められています。

アカミミガメが増えたのは、簡単に育てることができ、大きく成長し、その上、約 40 年という長きにわたって生きるため、飼いきれなくなって川や池に捨てたり、しっかり管理できなくて逃げだしたりすることによるものです。

アカミミガメを飼っていたら、最後まで一緒に過ごしましょう。



4.アカミミガメの防除

2019 年（2021 年改訂）7 月に環境省において「アカミミガメ防除の手引き」が作成されました。

これは、アカミミガメの影響を抑え、生態系の保全・再生が図られるよう、公園管理等を担当する行政官や、ため池や水路等で保全活動を行う方々が、アカミミガメの防除を実施する際に参考となるように、実施の手順等を示すこと

を目的として作成されたものです。その方法としては、次のものがあげられています。

① 誘引罠で捕まえる

市販の罠に臭いが強いエサ（アジやサバなど）を入れて、カメを誘引して捕獲します。カメの活動が活発になる 5～9 月の設置がオススメです。

② 日光浴罠で捕まえる

カメが日光浴をするための場所を人為的に用意し、その中心に落とし穴を作った罠です。カメが穴に落ちることによって捕獲できます。岸近くや平らな場所で日光浴をするアカミミガメの習性を利用した罠です。

③ 釣りで捕まえる

水面に浮かんでいるアカミミガメをエサで引き寄せて一本釣りします。1 匹のアカミミガメを狙って捕獲したい場合にはオススメです。

④ 手探りで捕まえる

越冬や休憩中のアカミミガメを手で探して捕まえます。この他に、定置網やタモ網などの方法が用いられることもあります。

アカミミガメ防除の手引き



令和元（2019）年 7 月作成

（令和 3（2021）年 8 月改訂）

環境省自然環境局野生生物課
外来生物対策室

ただし、アカミミガメはサルモネラ菌を持つ可能性があるため、取り扱いの際には、十分な注意が必要です。

また、捕獲にあたっては、事前に行政機関や、ため池・水路等の管理者等に連絡し指示を仰ぐことが重要です。

（参考資料）「アカミミガメを知ろう」及び

「アカミミガメ防除の手引き」

環境省 外来生物対策室

「エコノバ」 偵察記

主担研究員 花嶋温子

神戸市の資源回収ステーション

神戸市は、2021年11月からエコノバという資源回収ステーションを開設している。混ざるとリサイクルしにくいプラスチック資源を細分別して、リサイクルを実施し、「回り続けるリサイクル」を目指している。

さらに、リサイクルだけでなく、人々が集う場づくりも目指している。それで名前が、エコノバ（エコの場）となっている。

エコノバふたば

エコノバは、神戸市内に60箇所ほど設置されているが、私が訪れたのは、JR新長田の駅から15分ほど歩いたところにある、「エコノバふたば」である。もとは小学校の校舎だった建物だが、現在は地域交流や国際交流、災害NPO、大学などさまざまな団体が入っている。そのなかの一つが「エコノバふたば」である。いちばん最初に開設されたエコノバである。年間に約9500人以上の利用がある。（9500人というのは、スタンプカードにスタンプを押した人の人数）



回収品目

回収しているのは、詰替えパックや、食品透

明容器、食品用トレイ、歯ブラシ、ペットボトル、ペットボトルキャップ、プチプチ、乳酸菌飲料、豆腐容器などプラスチック製品が主である。使い捨てカイロや廃食用油や紙類などプラスチック以外にも回収している。市民は、好きな時間に資源物を持ってふらっと訪れ、自分でそれぞれのボックスなどに回収品を入れていく。

企業との連携

なにがすごいかというと、エコノバの回収がさまざまな企業と連携しているところである。例えば、花王とライオンというライバル企業が協力して、詰替えパックを回収している。

プチプチ（包装用の緩衝材で、つぶして遊んだことのある人も多い）も、川上産業というプチプチを作っている企業が回収して水平リサイクル（リサイクルして同じ製品を作ること）を目指している。

神戸市に本社のあるネスレ日本は、ネスカフェのパックを回収している。また、交流スペースにコーヒーマシンをおいて、無料で来場者にコーヒーを提供している。

ヤクルトとライバルのピルクルが、一緒に一つの乳酸菌飲料の回収ボックスをおいている。

内閣府のプロジェクトで、アマタが、豆腐パックやゼリー容器などを集めて、自動車の部材を作るプロジェクトを行っている。

ほかにも、たくさんの企業が参加している。どれも現時点で採算に乗っているわけではないが、未来にむけての実験場となっている。

行ってみよう

市民と企業と行政が一緒になって、資源循環をすすめていく、まさに、くるくるプラザが目指している方向である。

ワクワクするような循環のしくみづくりのヒントを探しに、是非一度行ってみてほしい。

市民研究所通信

令和7年12月20日(土)に今年度のくるくるキッズ環境スクールが無事に修了いたしました。キッズスクールに関わっていただいた市民研究員PT・ATの皆様、誠にありがとうございました。

今年度は初の有料開催という挑戦でしたが、12名の親子が参加。毎年「どうすれば環境問題を自分たちの課題として楽しみながら

学べるか」を大切に企画しています。なんと3年連続で受講してくれるお子さんもあり、継続して学ぼうとする意欲を称え「3年連続頑張った姿みてたで〜！嬉しかったde賞」を授与しました。保護者の皆様からは家庭での子どもさんの変化について「カーボンを減らすぞ〜！と言って頑張っています」「シャワーをこまめに止めるようになりました」「牛乳パックは資源ごみに出すようになりました」等の、お話を聞くことが出来ました。

「自ら知りたい！」と思えるきっかけ作りが、子どもたちの確かな行動変容につながっています。これからも地域の子どもたちが楽しみながら未来を考えるきっかけを作れるよう、一層充実したスクールを目指して行きたいと思っています。



事務局 玉江

大阪・関西万博のごみ箱がプラザにやってきました！

くるくるプラザA棟4階つながりラボに大阪・関西万博で使用されていたごみ箱を寄贈いただき展示しています。全国各地で展開するイオングループ店舗において、生活者の皆さまのご協力のもと回収した日用品の使用済みプラスチック製空き容器が原料として使われています。

このごみ箱は、テラサイクルジャパン、P&G ジャパン合同会社、イオングループ各社の共創にて、大阪・関西万博の運営参加型特別プログラム

「Co-Design Challenge」の取り組みを通じて、使い捨てをなくすことを目指した

「これからのごみ箱（資源回収箱）」として製作されたものです。

ぜひ、くるくるプラザへご来館ください。



くるくるプラザ 市民研究所 予定表



2月

休館日

2月

8日・9日・11日

16日・23日・24日



2月7日	土	すいた環境教育フェスタ<メイシアター>
2月14日	土	市民研究所代表者会議
2月15日	日	環境動画コンテスト表彰式・おもちゃ病院
2月17日	火	自転車抽選日
2月17日(火)~ 3月1日(日)		出張展示会<ラコルタ> 千里ニュータウンプラザ6F
2月18日(水)~ 2月25日(水)		環境学習発表会 千里ニュータウンプラザ2F



3月

休館日

3月

2日・9日・16日

20日・23日・30日



3月6日	金	施設案内専門員会議
3月8日	日	市民研究所代表者会議 くるくるサロン(千里高校)
3月15日	日	おもちゃ病院
3月17日	火	自転車抽選日



4月

休館日

4月

6日・13日・20日・27日・29日



4月11日	土	委嘱式・市民研究所全体会議
4月16日	木	自転車抽選日
4月19日	日	おもちゃ病院
4月29日	水	ロハスフェスタ出展(ワークショップ) *くるくるプラザは休館しております



QRコードでニュース
がご覧いただけます。

